

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3524		
科目名	犯罪心理学		
担当教員	島田 貴仁		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 1		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・法学		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 〔DP4-F〕探究力・課題解決力問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 〔DP4-I〕理解力・分析力文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 (40%) D1 (20%) F2 (10%) H1 (10%) H2(10%) I2(10%)		
教員の実務経験	1997年から国（警察庁）の付属機関である科学警察研究所で犯罪予防の研究・警察庁や都道府県警の実務支援・警察官に対する研修を行っている。 犯罪現象の分析，対策立案，評価の現場で多数の経験を有し，これらの経験をもとに講義を行いたい。		
成績ターゲット区分	2 進行期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	犯罪心理学は，犯罪者がなぜ犯罪を犯すに至ったのか，犯行の目的は何であったのかなど犯罪者の深層心理を追求し，犯罪者の特性や環境的な要因を解明することによって，同様の犯罪の予防や捜査，また，犯罪者の更生に役立つ知識やデータを提供しようとする心理学の一分野である。犯罪心理学の基礎を学ぶとともに，具体的な実例をとりあげて，犯罪心理学がどのように実際の犯罪の予防や捜査，犯罪者の更生などに活用されているのか考察する。心理学的なアプローチから，犯罪捜査に関わる考え方を身に付けることを目標とする。授業はオンラインにより行う。 (キーワード) 犯罪・非行、犯罪予防、犯罪と市民社会		
授業の趣旨	■ 副題 犯罪と市民の心理学－犯罪リスクに社会はどうかかわるか ■ 授業の目的 本講義では3つを主目的とします。第一に、テレビや新聞では重大事件がセンセーショナルに報道され、そこでは犯罪者や非行少年の心理も論じられていますが、科学的な目で犯罪や非行を見なければ、実態を見誤るばかりか、対策をも誤らせてしまいます。このため、本講義では		

	犯罪心理学・犯罪学の発展の歴史を学ぶことで、犯罪言説を批判的に捉え、個別事例や犯罪トレンドを各種の犯罪理論に当てはめて自分の言葉で考えられるようになることを目的とします。第二に、犯罪対策は多種多様にわたりますが、時に他の社会的価値と競合することもあります。このため、本講義では、各種犯罪対策の心理学的な背景について学ぶことで、受講生のみなさんが、犯罪対策のメリットとデメリットを分析し、犯罪対策を選択できる能力を身につけることを目的とします。第三に、犯罪心理学は犯罪者や非行少年の心理に興味偏りがちですが、犯罪の被害者は、社会から好奇の目にさらされ、時に非難の対象にさえなってしまいます。このため、本講義では、犯罪の加害・被害と、犯罪に対する社会の心理学的反応を取り上げることによって、受講生のみなさんが、市民社会の一員として犯罪リスクにどうかかわるかを主体的に考えることができるようになることを目的とします。 ■授業のポイント 犯罪や非行少年に対する好奇心的な興味・関心を、社会の犯罪対策や政策の重要な理解につなげてゆきたいと思っています。	
総合到達目標	受講者が、犯罪・非行の現象やその対策に関する心理学的背景についての基本的な知識を習得し、社会での犯罪・非行問題や犯罪対策について、社会の一員として自分の視点から議論し、意見表明できるようになる。	
成績評価方法	適用ループリック： E1 (40%)、D1 (20%)、F2 (10%)、H1 (10%)、H2(10%)、I2(10%) 成績評価手段： 主に、授業内でのテスト (40%)、小テスト (30%)、レポート (30%) によって行います (比重は予定です)。 成績評価手段の詳細は、ガイダンス等で適宜説明します。	
履修条件		
履修上の注意点		
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法、学習法・研究法、一般市民の犯罪心理学観について説明し、受講者は、講義の概要や受講後の達成目標について理解する。 ③予習 教科書を入手し、教科書（第1章1節）を読む ④復習 ニュースやネットでの犯罪言説を収集する。
	2	①授業テーマ 犯罪心理学の研究法とデータ源 ②概要 犯罪心理学の研究法（量的研究・質的研究）やデータ源について説明し、受講者は、日本での犯罪調査や世論調査の現状について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 教科書（ピックアップ1）を読む ④復習 ニュースやネットでの犯罪言説を収集する。
	3	①授業テーマ 犯罪心理学と刑事司法1 ②概要 刑事司法（犯罪捜査・裁判）と犯罪心理学との関連について説明し、受講者は、刑事司法での流れやそこでの心理学専門家の役割について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 教科書（第10章・ピックアップ13）を読む ④復習 講義資料を再読し、刑事司法での犯罪心理学の役割について考える
	4	①授業テーマ 犯罪心理学と刑事司法2 ②概要 刑事司法（矯正・保護）と犯罪心理学との関連について説明し、受講者は刑事司法での流れやそこでの心理学専門家の役割について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習

	教科書（ピックアップ16）を読む ④復習 講義資料を再読し、刑事司法での犯罪心理学の役割について考える
5	①授業テーマ 犯罪心理学の源流 ②概要 実証的犯罪心理学の起源と、19世紀までの犯罪・非行理論について説明し、受講者は、遺伝と環境論争について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 教科書（ピックアップ5）を読む ④復習 犯罪事例を収集する。
6	①授業テーマ 犯罪と犯罪者の見かた 1 ②概要 20世紀の犯罪・非行理論について説明し、受講者は、発達の犯罪予防と社会開発的犯罪予防について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 別途配布資料を読む ④復習 講義資料を再読し、自分で調べた各種犯罪事例に適用する。
7	①授業テーマ 犯罪と犯罪者の見かた 2 ②概要 サブカルチャー理論など集団心理に基づく犯罪・非行理論について説明し、受講者は、組織犯罪、カルト、テロリズムなど近年の犯罪心理学の課題について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 別途配布資料を読む ④復習 講義資料を再読し、自分で調べた各種犯罪事例に適用する。
8	①授業テーマ 犯罪不安と情報発信 ②概要 犯罪不安の規定因や、メディアと犯罪不安、情報発信の役割について説明し、受講者は、犯罪と犯罪不安のパラドックスについて自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 教科書（第1章2節～第2章）を読む ④復習 身近な情報発信事例を収集し、その問題点を考える。
9	①授業テーマ コミュニティと犯罪 ②概要 犯罪発生とコミュニティの関連について説明し、受講者は、防犯における自助・共助・公助の役割分担について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 教科書（第7章1-3節）を読む ④復習 地域での防犯ボランティア活動の現状について調べ、課題を考える。
10	①授業テーマ 環境犯罪学と犯罪分析 1 ②概要 環境犯罪学の歴史と背景理論について説明し、受講者は、割れ窓理論と警察活動について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 教科書（第8章1-2節、ピックアップ7）を読む ④復習 身の回りの公共空間・私的空間における防犯環境設計の適用例を収集する。
11	①授業テーマ 環境犯罪学と犯罪分析 2 ②概要 防犯環境設計や状況的犯罪予防とその背景の心理学的要因について、担当者の実務経験

		を踏まえて説明し、受講者は、各種応用例について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 教科書（第8章3-4節、ピックアップ8）を読む ④復習 収集した適用例について心理学的に考察する。
	12	①授業テーマ エビデンスに基づく犯罪予防 ②概要 近年行政の各場面で注目されているEBPM（エビデンスに基づく政策形成）やナッジとその犯罪予防への適用について、担当者の実務経験を生かして説明し、受講者は、各種犯罪対策の心理学的背景について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 教科書（ピックアップ6）を読む ④復習 EBPMやナッジの適用事例を収集して整理する。
	13	①授業テーマ 親密な関係者間暴力 ②概要 DV, デート暴力, ストーカーなどの親密な関係者間暴力の実態と原因について説明し、受講者は、親密な関係者間の予防に必要な要因について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 配布資料を読む ④復習 講義資料を再読し、自分や友人が被害にあった場合の方策について考える。
	14	①授業テーマ 犯罪被害者の心理と支援 ②概要 各種犯罪の被害者心理や日本における被害者支援制度について説明し、受講者は、被害時の通報や被害者に対する援助について自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習 教科書（第11章, ピックアップ15,16）を読む ④復習 講義資料を再読し、犯罪と社会の関わりについて考える。
	15	①授業テーマ まとめ ②概要 授業中にテストを行う。受講者は、犯罪心理学と危機管理について、科学的な知見を引用しながら自分の意見が述べられるようになる ③予習 授業全体を見直す ④復習 テスト問題を復習し、学習が足りない部分を中心に補充する。
関連科目	ヒューマンエラー論	
教科書	小俣謙二・島田貴仁（編,2011）犯罪と市民の心理学－犯罪リスクに社会はどうかかわるか 北大路書房	
参考書・参考URL	島田貴仁（2021）、犯罪予防の社会心理学－被害リスクの分析とフィールド実験による介入、ナカニシヤ出版 越智啓太（2013）、ケースで学ぶ犯罪心理学、北大路書房 桐生正幸（2012）、基礎から学ぶ犯罪心理学研究法、北大路書房 大淵憲一(2006) 犯罪心理学－犯罪の原因をどこに求めるのか 培風館	
連絡先・オフィスアワー	講義は火曜日1限に配当されていますが、オンライン授業で、受講生のみなさんと随時やり取りができればと思っています。	
研究比率	災害マネジメント10%：パブリックセキュリティ60%：グローバルセキュリティ20%：情報セキュリティ10% 危機管理学70%：法学30%	

